

建築版	施工段階	設備工事： 打込電線管	電気	○	設備工事 ポイントシート (4-1) (4-2)
			空調	—	
			衛生	—	
			その他	—	
4-1	躯体工事				

RC躯体の壁、スラブに打ち込む電気配線の通る管です。壁の場合、鉄筋が完了し型枠を返す前に、電気工事で設置してもらする必要があります。またスラブの場合、上下配筋が完了した後に設置してもらい、初めてコンクリートを打設出来ます。全体工程の早い段階での電気工事になるので、早期に総合図が出来ていることが大事です。そして躯体に打ち込まれるものなので、不用意な配置は躯体クラックや断面欠損など重要な品質欠陥に結び付きます。建築担当としては、電線管の工程をきちっと躯体サイクル工程で確保しましょう。

ポイント

■スラブ打ち込み配管

電気設備工事監理指針によると

- ・埋込む電線管の径は28mm以下かつスラブ厚の1/4以下とし、交差は極力減らします。
- ・並列して配管する場合は管相互の間隔は30mm以上とします。

■壁打ち込み配管

- ・外壁や戸境壁には打込まないようにします。

先輩アドバイス

- ・設計図の特記仕様書を確認しましょう。
- ・開口部周り・PS部分・屋上スラブ・重量機器周りなどは、コンクリートのひび割れの発生の可能性がありますので注意しましょう。
- ・デッキ谷部は、後施工アンカー等による損傷の恐れがあるため、配管が無いことを確認しましょう。

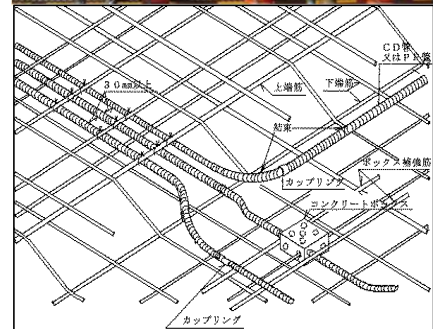
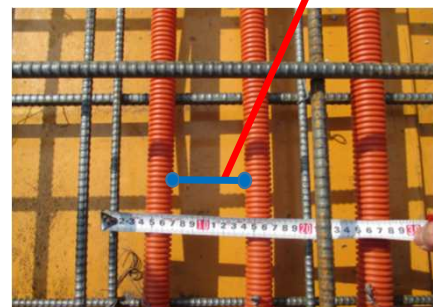
チェック項目

- 特記仕様書の確認はしましたか。
- 配管ルート・交差の事前確認は行いましたか。
- 配管を避けるべき場所は確認しましたか。
- 構造設計者・監理者によっては、電線管のスラブ打ち込みを認めない場合があります。

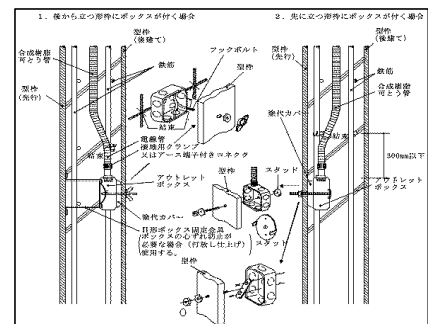
失敗すると...

- ・コンクリートのかぶり厚さ不足によるクラック、耐火性能低下、強度不足等の問題が起る可能性があります。その場合、ポリマーセメントモルタル等を使用した補修・増打ち工事を行うことになります。

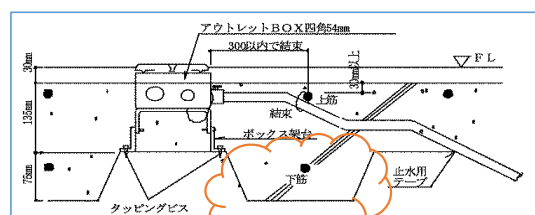
管相互間隔30mm以上



スラブ打ち込み 合成樹脂管



壁打ち込み 合成樹脂管



デッキ谷部に配管しない!

共通管理項目	合理化 省力化	施工性 向上	品質・ 性能向上	工期短縮 ・圧縮	コスト削減 (材料)	コスト削減 (労務)	設備 先行工事	工事区分 見直し	責任所在 明確化
	—	—	○	—	—	—	—	—	—
備考	参 考 文 献 :						初版発行	2020年12月	
							改訂		